

ケープタウン国際会議2018 参加顛末記

角川 順洋

KADOKAWA Yorihiro

(一社)日本非開削技術協会
事務局長



今年の8月。JSTT事務局において私のISTT会議出席が決まりました。私にとっては初の海外出張であり、その場所が南アフリカ共和国のケープタウン。正直なところは戸惑いのほうが大きかったように思います。

ISTTの報告は50頁から掲載しておりますので、今回はそれとは別に、私が出張で感じたことを少しばかり紹介させていただきます。

1 出発前

「今度、ISTT総会でケープタウンに行くことになりました」

⇒「くれぐれもご安全に」

外務省の海外安全ホームページには“危険度1”の注意が必要な国。

ケープタウンに関する情報を集めていくと、さらに不安は強まりました。

仕事でなければこれまでの自分には縁がなかった国でしたので、出張日が迫るにつれ、南アフリカ出張への不安は増していきました。

2 南アフリカまでの移動

南アフリカ共和国は、その名の通り広大なアフリカ大陸の最南端。もちろん日本からの直行便もありません。急遽決定した出張のため、出来る限り安いチケットを確保するべく香港、ヨハネスブルグと2回乗り換える便となりました。

まずは日本から4時間かけて香港へ。香港出張であればここがゴールとなるところですが、今回はまだま

だ先は長い。この後、香港からの飛行機は移動時間12時間のロングフライト。

香港を出発し10時間。夜明けのアフリカ大陸が朝陽に照らされるのを見て自分がこれまで踏み入れたことのない土地へ向かっていることを強く実感するとともにわくわくする気持ちも出てきました。



広大なアフリカ台地



ヨハネスブルグ空港乗継

3 南アフリカ共和国入国

長時間フライトの後、まずはヨハネスブルグ空港に到着しました。この街は南アフリカのなかでも治安が悪いと聞いており、周囲に気を配りながら国内線ターミナルへ移動です。国内線乗換えのため荷物もここで一度受け取ります。羽田で預けた荷物も無事に到着。スーツケースを転がしながら国内線の乗り継ぎへと進みました。

4 ケープタウン滞在スタート

今回の宿泊は、ISTT総会の会場と同一のホテルです。そして2日目以降から開催される発表、展示会会場はホテルの目の前でした。事前の治安情報に脅かされていたため、滞在期間中は一人で街歩きはせず、移動はホテルと会場の往復だけであとはホテルに缶詰になる気持ちでケープタウン滞在が始まりました。



ケープタウン国際空港到着



ISTT総会 会場

(1) 1日目 ISTT総会出席

初日は10月7日の日曜日。発表会、展示会の前日の日曜日に総会を行うのが定例です。

私にとって、初めての国際会議。英語が堪能な近藤次長もこの日はISTT側スタッフの立場で大変な様子。私は初めての国際会議に緊張しながらも、次々に展開される議題についていこうと集中し通しました。

会議終了後の夜はISTT会長が各国の総会参加者およびその家族を招く夕食会（Chairman's Dinner Party）です。

ここで初めて私はホテルから外に出ることになります。会場は歩いて10分程度のお店だったのですが、こちらもバスが用意されておりました。この距離でもバス移動ですので、いかに市内での夜間移動に気を遣っているかがわかります。南アフリカ料理をはじめ、民族踊りといったアトラクションも用意されており、各国の非開削技術協会スタッフとも交流が出来て大変有意義でした。前日の30時間フライトの移動疲れも感じることなく、あっという間の時間でした。

(2) 発表会、展示会出席 その後……

ケープタウン2日目。この日は、ISTT発表会、展示会の初日にあたります。

開会式に出席後、各セッションの発表会場や展示会場を回りました。

発表時間終了後、ISTTスタッフから我々へちょっとしたプレゼント。

「夕方まで少し時間が出来たのでJAPANもテーブルマウンテンへ行ってきたらどうだ」

世界遺産ということで見てみたい気持ちはもちろん



ISTT総会 会議をパジャリ



発表会場 島田先生



展示ブース

ありましたがスケジュールの都合もつかず、さらにホテルと会場の往復しか移動はしないという気持ちでしたので全く予定はしていませんでした。今回、ISTT側の配慮で見に行っただけのほうが良いと強く勧められ、ホテルでチャーターするタクシーであればそんなに心配いらないと“テーブルマウンテン”へ行ってきました。

やはり景色は素晴らしく感動したのはもちろん、このような経験をさせていただけたことに感謝いたします。

(3) 街の紹介

ホテル周辺は、国際会議場 (ISTT会場) もあり、近代的なビルが立ち並んでいるエリアでした。南アフリカの街はどんなところか具体的なイメージは事前に持っていませんでしたが、さほど日本とは変わらない雰囲気です。ホテルの警備員も恰幅の良い大柄な人が常に数人立っておりホテル内も心配はありません。

また、ホテルから徒歩15分ほどのところにウォーターフロントというショッピングモールがあり滞在の最終日に、ホテルのバスで立ち寄りました。



テーブルマウンテンからの眺め

こちらは、ケープタウンのメイン観光地なのか外国人が多い印象です。エリアの入口だけではなく、店の入口、コーナーといった目につくところには必ずガードマンが立っており治安が良いところでした。このエリアに入りようやく一安心。今回の滞在のなかで安全に思われた場所でした



近代的なビル



ウォーターフロントからの景色

(4) ルイボスティー

ウォーターフロントのお店でお土産として何気なく買ったルイボスティーが思いのほか、家族や友人に喜ばれました。

私も馴染みはありませんでしたが、飲んでみるとクセがなく美味しい。カフェインが入っていないので、夕食後に飲めるのもうれしい。調べるとルイボスティーは、今回訪れたケープタウンから北へ200kmの山地に囲まれたある一部ですが採れない名産品らしく、肌への効能や胃腸への効能もあるそうです。

5 帰国

今回、現地滞在は5泊。最初は長く感じて最終日は疲労困憊かやや不安に思っていました。現地に来るとやはり慣れるようです。あつという間の滞在でした。

復路も往路と同じ行程で戻ります。ケープタウン空港の出発は朝7時30分。国際線のチェックインですので、2時間前には空港を目指します。

早朝、まだ夜が明けない漆黒の闇のなか、ホテルで手配した送迎車で空港に向かいます。

夜明けの空港に到着し、チェックイン、ゲート通過をして、空港のベンチで一息。

ケープタウンでの出来事を思い出しました。

まずは危険な目に合わず無事に空港に到着できた安堵。そして現地で過ごした出来事。特にISTT総会への初参加。海外展示会、発表会。

そして、ISTT総会に集まった各国の非開削技術協会スタッフとのつながり。大変貴重な体験をさせていただきました。世界中の非開削協会が集まり顔を合わせて話ができただことは、今後の業務で非常に有意義だったと思います。

また展示会場で特に印象的だったのは、「JSTT」という名の重さです。協会の代表で出席した私に、各ブースどこも丁寧に時間をかけて説明をしていただきJSTTとして参加する責任を改めて感じました。

最後に、南アフリカに対して出張前になんとか治安が悪いというイメージが自分のなかで変わったことが大きな変化でした。きれいな街並み、美しい自然を

見たら、また改めて機会があれば来てみたいと思うようになりました。次回行く機会があるときには、この国がもっと豊かで安全な国になってほしいと願っております。

帰路もヨハネスブルグ、香港と乗り継ぎ、ようやく日本へ到着。

長い出張が終わりました。



【本紙表紙の写真について】



本紙表紙

本紙の表紙は、今回の出張で撮影したケープタウン市内の風景です。写真のとおり欧州と変わらないようなきれいな街並みで、背後には有名なテーブルマウンテンが控えています。この都市も路面下のインフラ設備の劣化が深刻で日本と同様の課題を抱えているようです。

ケープタウンは、国際会議の開催設備が整っており、南アフリカ非開削技術協会が長年にわたり開催の立候補を繰り返し、ようやく今年になって開催が実現となりました。

今回の国際会議を開催することで、世界中の先進的な非開削技術を集め、南アフリカ国内の政府関係者や自治体へ管渠維持の重要性や非開削の新技术PRを行ったようです。